

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	訪問診療におけるクラウド型電子カルテの有用性の検討
演者名	山科明彦、池田義博、井戸茂樹、岡田豊、中村幸伸
所属	つばさクリニック

【目的】

超高齢化社会となり、慢性疾患の増加したわが国において、在宅での生活を支える訪問診療は不可欠となっている。在宅医療の対象患者が増加していくなか、医師 1 人のみで 365 日 24 時間の緊急時対応することは非常に困難であり、複数医師でのグループ診療が必要となる。しかしながら、紙カルテやオンプレミス型電子カルテではタイムリーな情報の共有や伝達が困難であった。近年、IT 技術の進歩によりクラウドコンピューティングが活用できるようになり、クラウド型電子カルテが利用可能となっている。今回我々は、2009 年の開院以来診療に利用している、クラウド型電子カルテの有用性について検討した。

【実践内容】

クラウド型電子カルテでは、場所を選ばずカルテ参照が可能であり、24 時間 365 日主治医が初期対応可能であった。また、緊急往診時などに速やかな情報共有が可能であった。情報開示の同意を頂いた患者の診療情報が、訪問看護ステーション、薬局などともリアルタイムで情報共有が可能であり、在宅医療における地域包括ケアシステムの構築に非常に有用と考えられた。その一方、データ通信サービスが接続不可能な場合や、電子カルテサーバーとの通信が不可能あるいは遅延がある場合があった。

【考察】

クラウド型電子カルテは、タイムリーな情報共有や伝達ができ、多職種の連携も可能となる一方、ネットワークやサーバーなどのダウン時には同様の診療が困難となる。メリットを享受する一方で、内包するリスクを考慮して利用する必要がある。

利益相反はありません。